

平成 30 年度「みどりとふれあうフェスティバル」に出展

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター

5月12日（土）～13日（日）に都内の日比谷公園で『第28回森と花の祭典「みどりの感謝祭」』との併催行事として、「みどりとふれあうフェスティバル（主催：農林水産省・林野庁、東京都、（公社）国土緑化推進機構等）」が開催されました。

このフェスティバルは、「都市で生活する人々を対象として、実際にみどりの恵みや木のぬくもりを見て、ふれて、食べてみることにより、自ら感じてもらえるような憩いの広場をつくる」ことを目的として、毎年「みどりの月間」に開催されています。

森林整備センターでは、都市住民の皆様には森林の持つ公益的機能等に対する理解を深めていただく機会として、毎年出展しています。

今年も、当機構3部門（森林総合研究所、森林整備センター、森林保険センター）全てのブースでスタンプを集めた方に、記念品をプレゼントするスタンプラリーを実施しました。



当センターの展示ブースでは「水源林造成事業のパネル展示」のほか、「間伐材を利用したコースターづくり」「木への漢字クイズ」を設けました。

特に、「間伐材を利用したコースターづくり」では、13日が母の日だったことから、子どもたちが、思い思いの絵を熱心に描いたコースターをお母さんにプレゼントする光景が見られました。

今後もこのような木や森林に親しむ活動を通じ、首都圏に住む皆様にも水源林の重要性についてご理解いただけるよう努めてまいります。